

《実践研修①「教科における人権に関する教材開発」》で、学んだことや今後の実践に生かしていきたいことを教えてください。
どの教科でも、人権について考えることが出来るなあと思いました。校内でも共有したいと思います。
毎年市同教で行う授業実践交流会で、自分自身が分かってなかった人権・同和教育の視点をどう説明すれば良いかが少しだけ理解できてよかったです。
授業の指導案を作成しました。人権教育の資質・能力を踏まえた指導案が難しく感じました。各教科の内容と加えて人権を学ぶチャンスは多くあるのだと意見交換で学びました。
すべての教科で人権教育を、ということで簡単に指導案をかきましたが、実際に考えてみると普段実践していることも多くありました。今後でも取り組んでいきたいと思いました。
家庭科は個人作業が多く、人権教育に関する3側面をどう入れ込むのか悩みました。グループ協議をすると、簡単に「話し合いで他者の考えを聞く機会を増やす」こと、そして「他者の意見を興味を持って聞き、受け入れること」があてはまることがわかりました。普段からグループ活動を取り入れているので、たださせるのではなく、どんな視点を持って取り組ませるのか声をかけることが大切だと思いました。「人権教育」といわれると身構えてしまうところもありますが、「そんなことはないですよ」と他職員に広めていきたいです。
職員研修等で取り入れたい。どの教科でも、人権・同和教育の視点をもつということが大切だとわかった。自分でも、視点をもって教材を見てみると普段何気なくやっていることにも価値が付加されたように感じた。そのことを他の職員にも感じてほしい。
昨年度教えていただき、学校でも通信でしました。改めて勉強になりました。 事例を挙げていただき、改良してどんな視点で人権学習ができるかを考える時間があってもよかったのかなと思いました。
各教科で人権教育は難しそうだと身構えていましたが、高崎先生のお話をきき、授業の中にどのような人権教育の視点を取り入れたらいいのかが分かりました。指導案で価値的・態度的側面と技能的側面を考えていくと、普段授業の中で行なっていることと重なる部分が多いことに気がきました。しかし、普段はなんとなく取り組んでいたことを、人権教育の視点として意識して取り組むことが大切なのだと感じました。意見交流では、自分の考えた指導案について経験のある先生方からアドバイスをいただいたり、他の教科、校種で取り組まれていることを知ることができたりし、とても有意義な時間となりました。今回学んだことを、職員研修で扱い、先生方に広めていきたいと思いました。
知識的側面や価値的・態度的側面、技術的側面が人権教育を通じて育てたい資質能力であることを初めて知った。ただ、教科における観点を教えることも大事であるため、どちらも大事であるが優先的に決められることではないと考えられた。
今まで人権に関する授業という、特定の教科というイメージがありましたが、どの教科でも、指導する私たちがしっかり視点をもてば、授業ができると思いました。 今日、考えた内容で、授業案を完成させて取り組もうと思います。
人権・同和教育は全教科、全領域で実践することになっています。今回の研修ではその手がかりとなることを学ぶことができました。価値的・態度的側面や技能的側面では多くの単元で学び合いやグループ学習などいろいろな場面で活用できることなどを再確認できました。
校種、教科先生方と意見交換を行ったが、やはり中学校の先生方の取組は勉強になった。いろいろな授業の場面を通して、自己肯定感を植え付け、他者を思いやる場面をちりばめてあった。授業の中でグループ学習などをもっと積極的に取り入れたい。
最近、全く指導案を作成していないので改めて自分の授業や扱う教材について捉え直し、考え直す良い機会となりました。 今後は、指導案を作成せずとも、今日の研修を念頭に置いて授業を実施しようと思います。
小学校の書写でふだん自分がやっていることを価値づけてみました。自己理解、他者理解につながると思いました。
教材で育てる、知識的側面や態度的側面を考えさせ、行動に結びつけるようにするために、取り組んでいく授業の分析をして、より生徒の身になるように取り組んでいきたい
全ての教科で人権・同和教育を行うということは、全ての教育活動で人権・同和教育の視点をもって行っていくことだとわかりました。教科の学びを深めるために話し合い活動を取り入れることが多いが、目標を達成するためには話し合い活動がうまくいかないといけない。うまく話し合いを進めるためには、人権・同和教育の視点が大切だと思いました。
すべての教育活動で人権教育を行うこと、人権教育で身につける資質能力があることを知りました。
教科の中で人権・同和教育の視点を入れることはわりと自分の中ではやっていたのかも再確認できました。ただ、指導案上に記載するとなると、なかなか難しいものだと感じました。例えば、校内研修等でたくさんの先生方にお伝えする方法として、このようなやり方もあるのだということが勉強になりました。

グループでは、私の高校英語をはじめ、中学英語の先生方2名と小学校家庭科における話し合いができました。ほかの校種の先生方との意見交換は大変有意義でありました。人権にかかわる視点は、結果的に教科指導がスムーズにいくにかかわると感じました。生徒たちの人権を尊重する授業づくりは、あらゆる教科の根底になければならないと思います。
人権教育の視点について改めて考える良い機会になりました。
人権・同和教育の授業を実践するにあたって、どのように指導案を書いていくべきかは、昨年度佐賀市同教で議論になっていたことでした。今回、支援教員研で学ぶことができてよかったです。
3側面・・・難しかったけど、勉強のため書いてみようと思う
中学校、高校の先生方のお話を伺うことができて、大変ためになりました。支援教員なので小学校でも6年生対象の部落史の授業があるので、小学校における部落史の授業実践の中での難しかった話などを聞いていただいたり、社会科における賤称語ほか、人権に関する様々なお話が話題になり、参考になりました。自分の道徳の指導案は次回実践のための資料になったと思います。
久しぶりに書写の指導書を真剣に読みました。書写は文字を整えて書くことを中心に考えてましたが・・・。一番心に残った、気づかされたことは最終目標は「きれいに書くこと」ではなく、「自分の表現したいことを相手に伝えられること」であることでした。ここを人権感覚として子どもへ伝えながら授業を仕組みます。
グループ学習をすることによって、自分と違う考え方や価値観をもつことを知ることや、うなづいたり、自分の意見とどうかなと考えたりして、意見を出し合ってコミュニケーション能力を高めたり、人権感覚を高めるような言葉かけをしていきたいと思います。また、本校の職員にも知識的側面、価値的側面、技能的側面についてやどの教科でも取り組めることを伝えたい
自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識を指導案を作成することで学ぶことができました
校種のちがい、教科のちがいなどでいろいろなアプローチの仕方があることがわかって大いに参考になった。本年度の実践づくりの際に活用させていただきます
人権教育は道徳や社会でテーマを決めて取り組むものだと思っていましたが、どの教科でも、いつでもどこでも意識して取り組むものだということがわかりました。これからは常にこのことを意識して取り組むようにしていきます。
各教科の教科書の中に、「人権・同和教育」に関わる内容が、「包括された教材」があることを今回は再認識できました。支援教員4人で、カリキュラムマネジメントを含め、実践の実際として、話し合えたのはとてもよかったと思います。 特に、わたしたち4人が、「人権・同和教育」の視点で、教材分析を行い、授業の展開を考えたところが重要だろうと思います。 ただ、人権・同和教育に関わる授業実践は、やっぱり難しいと思います。わたしは書写で、人権・同和教育の視点を意識して指導案を考えてみましたが、各教科には、各教科の目標、本時に関しても本時の教科の目標があります。一般に多忙な学校現場では、日々の教材研究を受けて、本時の目標・指導展開を把握し、授業を行っています。そこに明確な人権・同和教育の視点があるとは思えません。つまり多くの先生たちは、そういった視点を持たずに授業をしているのです。もちろん、人権・同和教育の視点がなくても、その教材を実践するだけで、人権・同和教育について子どもたちの意識・認識を高めることが「できている」ともいえますが、先にも書いたように、「人権・「同和教育の視点」をもって、目標・展開を考えたからこそ、その視点に立った授業実践を構築できたわけです。そういった意味では、支援教員だけが、その視点を意識して実践できても、なかなか佐賀県全体へのカリキュラム化にはつながらないと思います。意識しなくても「人権・同和教育の実践として目標を達成できている」ということであることを願いたいですね。あるいは、人権・同和教育の視点で授業づくりをするという研修を全ての教職員が経験すべきことではないでしょうか。あっ、そうか、各地区同研で、全ての県費負担教職員を対象にした「人権・同和教育の視点に立った授業づくり」の研修を企画・立案し、実践していくことが本研修の狙いだったのかな？
教科によっては、取り組みにくい場合があるように感じた。しかし、班編成などで教えあうことにより、互いを思いやる気持ちを育成するような指導はどの教科でもできるように思った。
どの教科であっても相手の考えを認め合うこと肯定的により良い学び、関係を築いていくことが人権教育で大切だと感じた。
普段は交流できない義務制の先生方の授業の構成方法や、中学校段階の社会科の知識などを教えていただき、自分の授業の組立に大変参考になった。
人権教育指導方法の在り方について（第3次とりまとめ）を意識して、知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の視点を入れながら授業づくりをしていくことは重要だと思いました。 別な話になりますが、教材開発について、佐同教ホームページに掲載されている資料を実践を通してより良いものに改良していく必要はないのか。支援教員で、現在掲載している教材の見直しの検討だという声もよく聞きます。例えば、佐同教でも推奨されている「人権 幸せになるために」はみんなで議論していけばもっと良くなるだろうと思います。

すべての教科で人権教育の推進をするということで、教科指導の中で人権の視点を入れて教材研究ができたことが良かったです。ただ、今まで校内研究や初任研の指導案をつくるときに第3次とりまとめに示されているような3側面を意識したり明示したりしたことはなかったなと思いました。大事な視点ですが、残念ながら一般の先生方にも浸透していない気がします。この点をどのようにして一般の先生方に浸透させていくのか考えていきたいです。